



▲写真 K-029  
あんちょうじ  
安長寺の大樟

本堂の前に立つ見事な単幹樹である。伝承では、寺の創建時、豊後より2本の苗木を移植し、一本は近くの祇園社に植えられた。(写真・Web画像)

▼写真 K-031  
まつさき おおくす  
松崎の大楠

松本家の屋敷内にある巨大なクスノキ。2mで大きく2分岐し、引きがないため撮影困難。(写真・Web画像)



▲写真 K-030  
だいとくじ  
大徳寺の大クス

旧大徳寺跡地にある大徳寺公園の一角、楠稻荷神社の背後に立っている。根元上部で大小二分岐、主幹は幹周11.05m、株周13.0mである。(写真・Web画像)

▼写真 K-032  
すが  
須賀神社のクス

神社境内にあり、巨木DB幹周10.9mであるが、M式幹周13.05mという、M式が2mも大きい珍しい巨木。主幹破損部を補修してあるが、堂々たる樹形である。

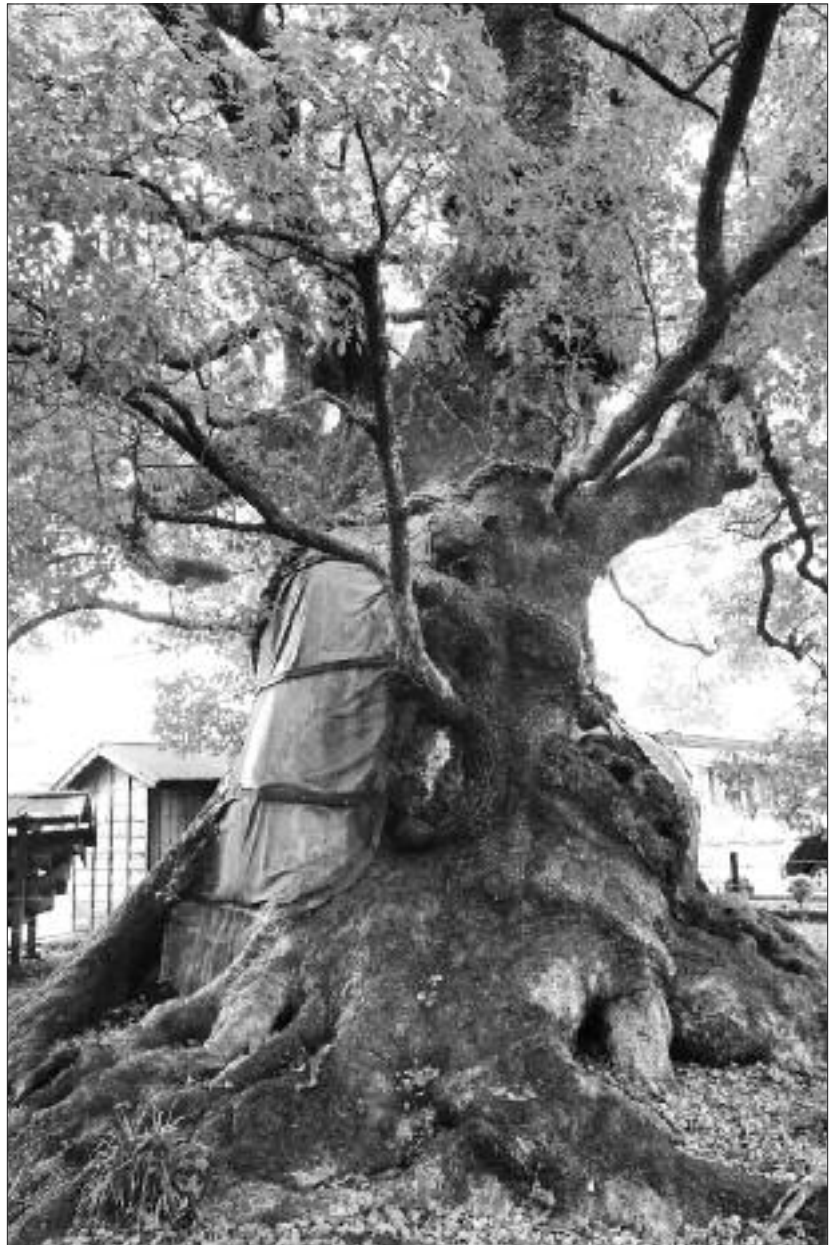


写真 K-033▶

せいだ おおくす  
清田の大樟

清田地区では明治期までクスノキの大木林が広がっていた。みかん畑や住宅地にするために、次々と伐採されたが、このクスノキだけが生き残ったという。

集落の小さな児童公園いっぱい広がるクスノキで、根元が大きく膨らむ樹形。



◀▼写真 K-034

おらのみこと おてうえ くす  
乎知命御手植の楠

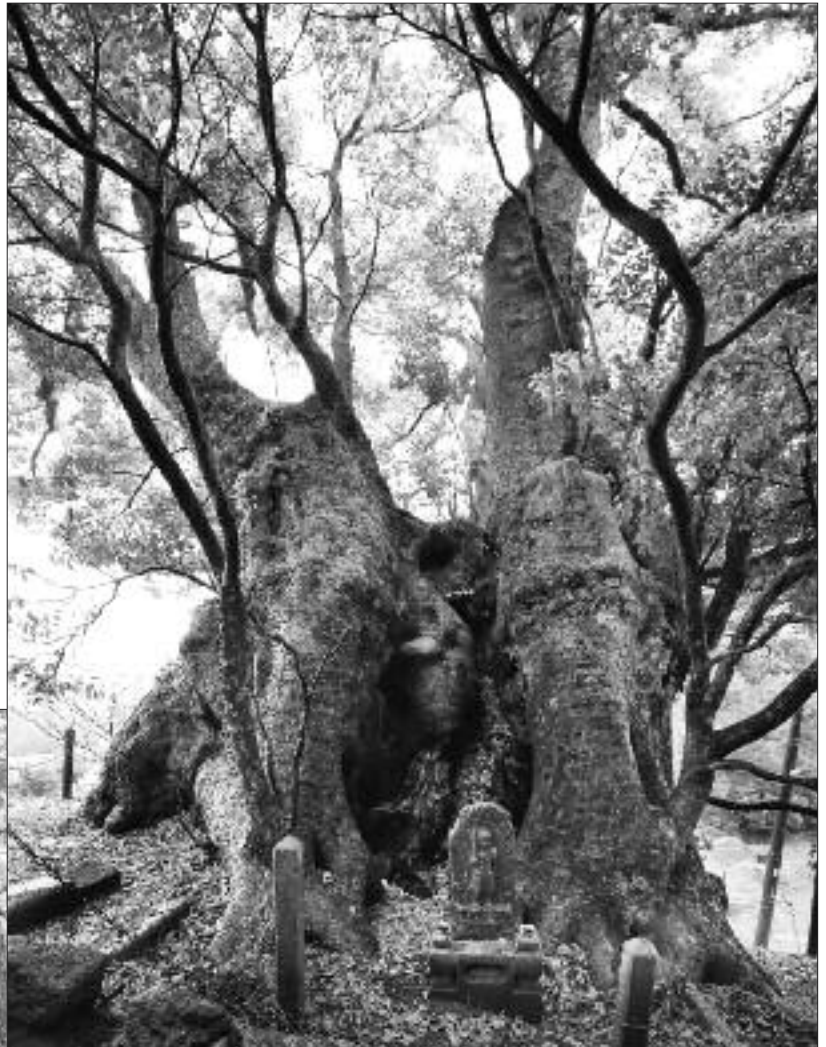
瀬戸内海に浮かぶ大三島にある大山祇神社境内中央に玉垣に囲まれて立つ。日本最古のクスといわれた「能因法師雨乞いのクス」は枯死した。少し離れた奥之院には「生樹の御門」というトンネル状のクスがある(写真 K-042)。



写真 K-036▶

たまき おおくす  
環の大樟

高源寺に登る参道坂途中、斜面際に立つ巨木である。地上5mで2分岐し、主幹は半分に割れるように空洞化している。根元には不動像が安置され、地元の信仰を集めている。裏側が崖になっているので、幹周測定では、半分を測定して二倍する。

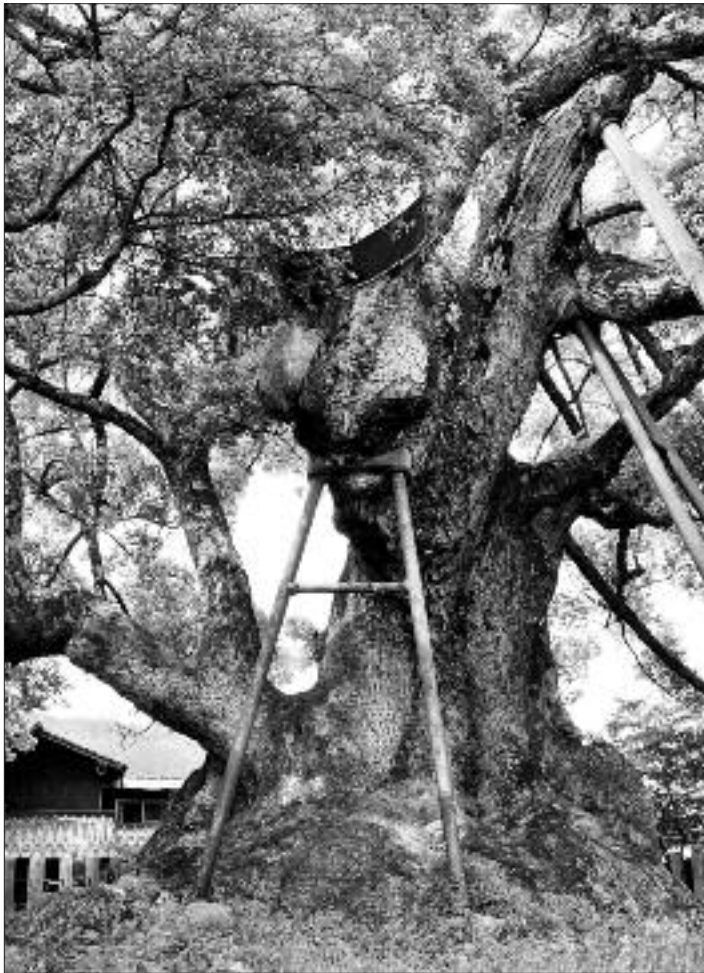


◀写真 K-035

かわたな  
川棚クスの森

クスの森と呼ばれているが、一本のクスノキ。樹冠の外周が180mもあるという巨大な樹である事から、森と呼ばれている。小高い丘の片隅に立ち、小公園を覆うように枝葉を伸ばしている。

地上2~3mで10分岐し、その内6本は水平に伸び、地面に着く幹もある。



▲写真 K-037

ほんじょう  
本庄の大クス

幹周 19.45m は根元  
広がりによるもので、背  
後が崩れ、主幹の幹周は  
10m 程。よってB評価  
とした。



▼写真 K-039

かみやつ  
上谷の大クス

クスノキの巨木としては内陸部にあり、大変珍しい存在だ。民家の守護神として育てられた。山側から見ると根元で2分岐する分岐幹。日当たりが悪くなって、樹勢に衰えが見られる。



▲写真 K-038

はたやま  
旗山神社の大樟

神社から道を挟んで隣の台地に立つ。主幹は空洞化が進み、皮一枚で持っている状態である。幹周の数字は大きいですが、倒木寸前なのでB評価とした。  
(写真・石田徹)

▼写真 K-040

なご  
長太の大クス

広大な水田地帯に立つ見事なクスノキで、落雷や台風の被害から逃れた奇跡の一本。幹周 8.8m だが、巨大感溢れ、実に見事である。





▲写真 K-041

おかのみや  
岡の宮の大クス

幹周6m代のクスノキ3本が並立するが、根元が繋がっているため株周表記とした。  
(写真・石田徹)



▲写真 K-042

いさぎ ぐもん  
生樹の御門

おおやますみ  
大山祇神社から200m程離れた場所にある。主幹根元が空洞化してトンネル状になり、奥之院へ向かう門の役割を果たしている。幹周の測定は意味を持つとは思えない樹形で、門樹としては異例の存在だ。境内には「乎知命御手植えのクス」(写真・K-034)があり、日本最古のクス「能因法師雨乞いのクス」は枯れてしまった。



▲写真 K-043

こうのうら てんじんくす  
郡浦の天神楠

宇土半島の本庄菅原神社の境内に立つ。中央主幹は折れ、側幹が何本か立上がり、樹勢を保っている状態。(写真・Web画像)



◀写真 K-044

おがわあそ  
小川阿蘇神社の樟

2mで大きく2分岐する樹形。分岐幹か二本の融合かは判断できない。(写真・Web画像)



◀写真 K-045  
じごせ くのき  
十五社の樟樹

妙楽寺の境内に立ち、かつて十五社明神があったという。根元近くで多数に分岐するが、巨大である。(写真・石田徹)

▼写真 K-046

つかさき おおくす  
塚崎の大楠

武雄市には巨大なクスノキが3本もあり、その内の一本。小高い場所に立っている。主幹は落雷で損傷、根元は巨大空間が空く。かつての勇姿が偲ばれる。





▲写真 K-047  
はくさん おおくす  
白山神社の大楠

根元が広がる典型的な樹形で、主幹は細いが、巨大な樹冠は見事である。  
(写真・石田徹)



▲写真 K-048  
てんち  
天地神社のクス

根元が広がる樹形で、幹周数字が大きく出る。若々しく、樹勢がよい。



▲写真 K-049  
ただぬま  
但沼神社のクスノキ

高台にある社殿の横に立つ見事なクスノキで、根元が大きく広がっている。



▲写真 K-050  
くもだち  
雲立のクス

浜松八幡宮の拝殿の前に立つ。主幹は破損して空洞化が激しいが、徳川家康ゆかりのクスということでB評価とした。(写真・Web 画像)



▲写真 K-051  
どい  
土居の大グス

水田の中に立ち、樹下に小祠がある。1.5mで大小3分岐する樹形。

(写真・巨樹巨木巡礼 HP)



◀写真 K-052  
ふちろくしよせんげん  
富知六所浅間神社のクス

主幹上部は破損し、根元が空洞化するが、巨大な幹を残して、まだまだ見応えのある風貌をしている。

写真 K-053▶  
しろやま  
城山のクスノキ

城山の遊歩道沿いに立つもので、根元が大きく広がる樹形。  
(写真・Web 画像)





▲写真 K-054  
かまど  
竈神社の大クス

表参道石段の脇にあり、石段を遮るように低い位置で太い幹が出る。幹周測定は地上0.5m位置。巨木DB幹周12.8mは、水平幹を合計したものか？。  
(写真・石田徹)

▼写真 K-056  
おおもと くす  
大元神社跡の樟

2本の融合木で、1.5mまで融合している。(写真・石田徹)



▲写真 K-055 くしぶちてんまん  
櫛淵天満神社のクスノキ

鄙びた神社境内に立つ。1~1.5mで3分岐する樹形で、二本が連理している。根元がくびれる珍しいクスノキで、幹周測定は根元付近になる。



◀写真 K-057  
にしかわた  
西川田の大グス

吉野川堤防横にある楠木神社の鳥居近くに立つ。1.5mで2分岐する樹形である。  
(写真・Web画像)

▼写真 K-058  
ぜんどうじ おおくす  
善導寺の大樟

境内に3本のクスノキがあり、2本が根元で融合している。これを大樟と称するため、株周表記にした。実際は並立である。  
(写真・巨樹巨木巡礼HP)





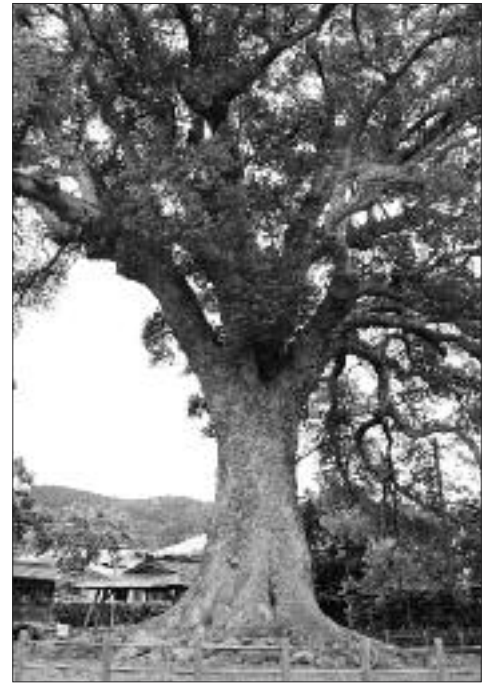
▲写真 K-059  
くりさき てんじんくす  
栗崎の天神樟

2.5m で3分岐するが、天空高く伸びる見事なクスノキである。



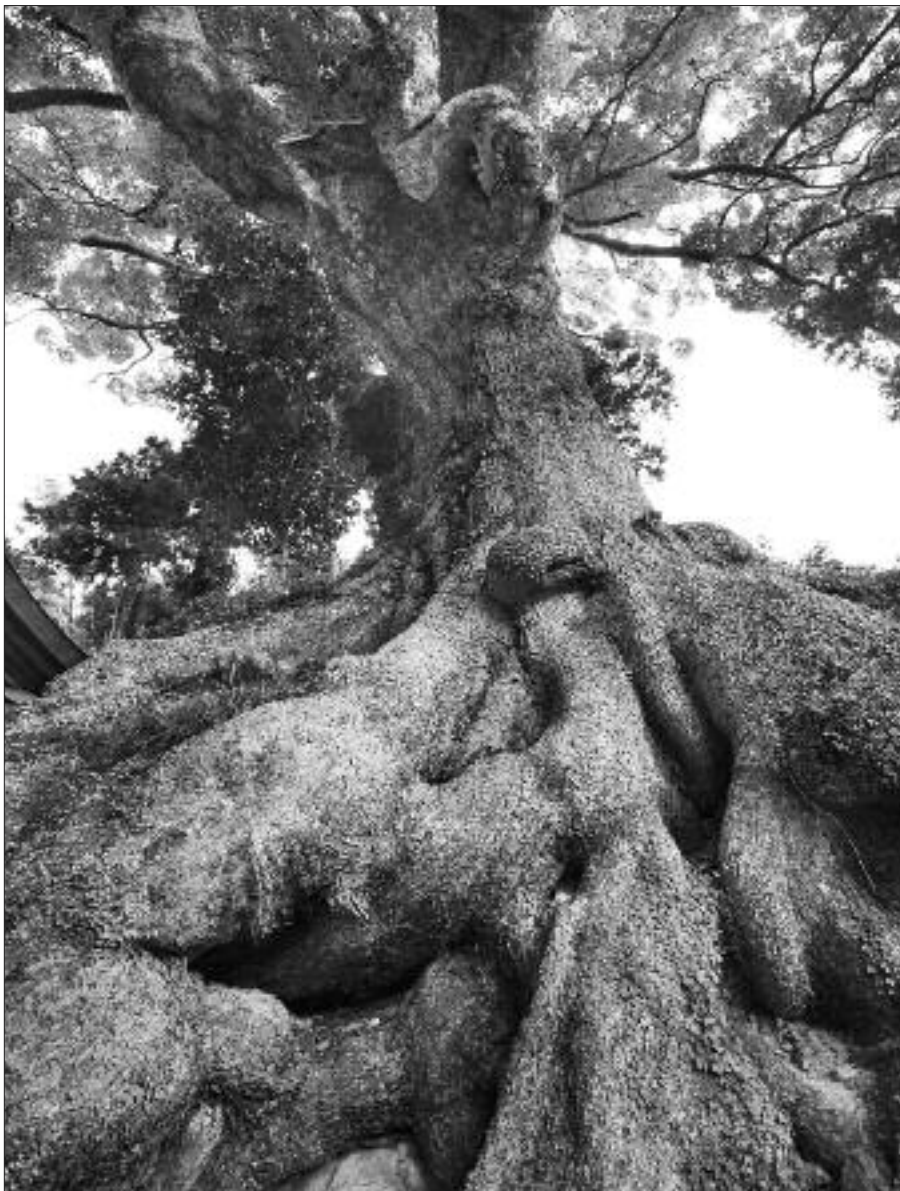
▲写真 K-060  
ありだ  
有田神社のクスノキ

根元がやや膨らんだ堂々とした樹形をしている。(写真・石田徹)



▲写真 K-062  
つえ  
津江神社の樟

広い境内の中央に聳えるようにして立つ見事な単幹樹である。



◀写真 K-061  
てらの  
寺野の大クス

斜面上部に立ち、斜面を伝うように根が広がる樹形は迫力がある。下部は根なので、幹周測定は上部山側から。

▼写真 K-063  
こも  
薦神社のクスノキ

立派な社殿の奥、根元が大きく膨らむ堂々たる姿をしている。(写真・石田徹)







▲写真 K-064

かみほきた  
上穂北のクス

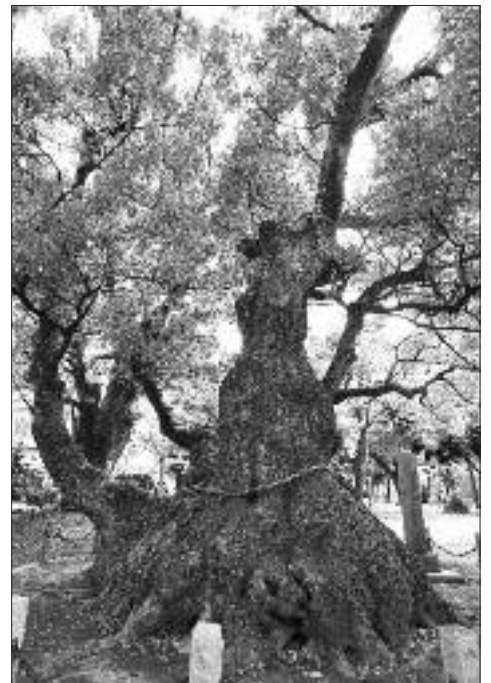
根元が大きく広がる樹形で、幹周測定部は、注連縄辺り。大きな数字が出る。



▲写真 K-065 (写真・Web 画像)

いさはや  
諫早公園の大クス

かつて諫早城があった所で、根元近くで3分岐するが、2本の合体木である。



▲写真 K-066

やはしら  
八柱神社の樟

根元が大きく膨らみ、幹周データが大きくなった。



▲写真 K-067

とりや  
鳥屋の大クス

集落の小公園に立ち、主幹は焼けた大きな空洞があり、5mで2分岐する。樹下に小祠がある。

写真 K-069▶

だい  
大神社のクスノキ

根元が大きく膨らみ、幹周データが大きく出たもの。  
(写真・谷田元彦)



▲写真 K-068

あすか  
飛鳥神社のクスノキ

神社背後、道路との空いたに立つ。主幹根元が大きく膨らむが、樹冠は巨大である。





▲写真 K-070

ゆみしき  
弓敷天満宮のクスノキ

2m程で2分岐する樹形。融合木かは不明。  
(写真・Web画像)



▲写真 K-071

てんじゃぐう  
天社宮の大クスノキ

小さな社の御神木である。(写真・石田徹)



▲写真 K-072

おこなむち ごしんぼく  
大汝牟遲神社の御神木

境内の端に立ち、安定感のある樹形である。(写真・Web画像)



▲写真 K-073

いせしんめいしゃ  
伊勢神明社の大クス

実に堂々たる単幹樹である。  
(写真・谷田元彦)



▲写真 K-074

いなざ  
稲佐神社の楠(A株)

境内に2本の大クスがあり、社務所脇に立つもの。(写真・石田徹)



▲写真 K-075

いなざ  
稲佐神社の楠(B株)

A株近く、鐘樓の斜面に立つもので、A株と同じ程の迫力がある。  
(写真・Web画像)



◀写真 K-076

あおはた  
青幡神社の楠

中央主幹は破損するが、側幹2本が大きく広がる堂々たる樹形である。(写真・石田徹)

写真 K-077▶

ぎおんしゃ おおくす  
祇園社の大楠

「安長寺の大クス」と夫婦クスとされるもので、こちらは男楠ということだ。  
(写真・巨樹巨木巡礼 HP)





◀▲写真 K-078

つま  
妻のクス

1967年、1990年に内部が焼け、1993年の台風で幹半分が倒壊した。左は倒壊前の1990年撮影、上は倒壊後の2012年の画像。(上写真・石田徹)



▲写真 K-079 (写真・Web画像)

ひらきき  
枚間神社のクスノキ

境内正面入り口に立ち、大枝は剪定されている。



▲写真 K-080

つまだ  
妻田のクスノキ

妻田薬師堂脇に立ち、根元が広がる樹形。(写真・Web画像)



▲写真 K-081

かまや  
釜屋神社の楠

社殿の横に立ち、根張りが見事。(写真・Web画像)



▲写真 K-082

といら  
豊浦神社のクスノキ

カゴノキの巨木がある境内中央、樹勢がよいクスノキである。



◀写真 K-083

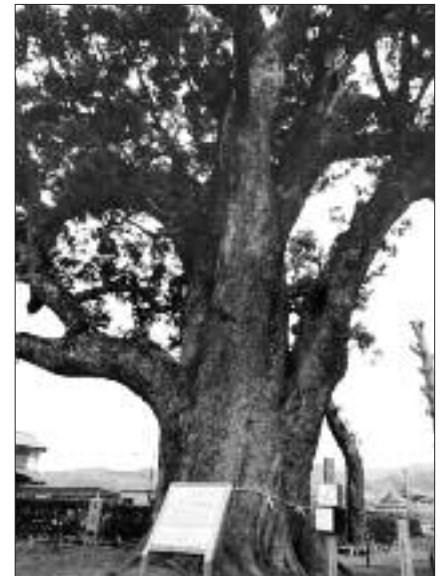
みょうれんじ  
妙蓮寺の樟

根元に石塔を抱く珍しいクスノキ。(写真・Web画像)

写真 K-084▶

くすぎゅう  
楠木生八幡神社のクスノキ

神社の御神木で、大変樹勢のよいクスノキである。(写真・Web画像)





▲写真 K-085  
たかはらくまの  
高原熊野神社のクスノキ

境内に3本のクスノキがある内、最大株。(写真・石田徹)



▲写真 K-086  
みなみばば おおくす  
南馬場の大樟  
熊野速玉神社境内にある見事な単幹樹である。



▲写真 K-087  
おわせ めおとくす  
尾鷲神社の夫婦樟

境内に4本のクスノキがあり、鳥居横の2本は夫婦樟と呼ばれる。



▲写真 K-088  
たかなべ  
高鍋のクス

舞鶴神社の境内縁に立つクスノキで、1.6mで2分岐していたが、一本が破損している。(写真・石田徹)



▲写真 K-089

だん  
壇の大クス

主幹と2mから出る側幹からなる樹形で、最盛期には巨大な樹冠を呈していたが、近年樹勢は弱っている。(写真・巨樹巨木巡礼HP)



▲写真 K-090

すが  
須賀神社の楠

祇園川の神社対岸に立ち、2mで大きく3分岐する樹形。(写真・石田徹)



写真 K-092▶

ながしま  
長島神社のクスノキ

神社石垣の下に立ち、主幹にグロテスクなコブがある。

◀写真 K-091

かみみはら おおくす  
上三原の大樟

高台にある山神社の横に立つ堂々たる単幹樹で、根元が大きく広がる樹形である。





▲写真 K-093

わかみややはちまん  
**若宮八幡大クス**

落雷で主幹が大きく破損し、空洞化が激しい。(写真・Web画像)



▲写真 K-094

いしがみ  
**石神神社のクスノキ**

小さな社の背後に立ち、根元が大きく膨らむ樹形。(写真・Web画像)



▲写真 K-095

たまずみ おおくす  
**玉澄さんの大楠**

越智玉澄の墓所に立つ大クスで、主幹と側幹からなる樹形。(写真・Web画像)



▲写真 K-096

みょうけん  
**妙見のクス**

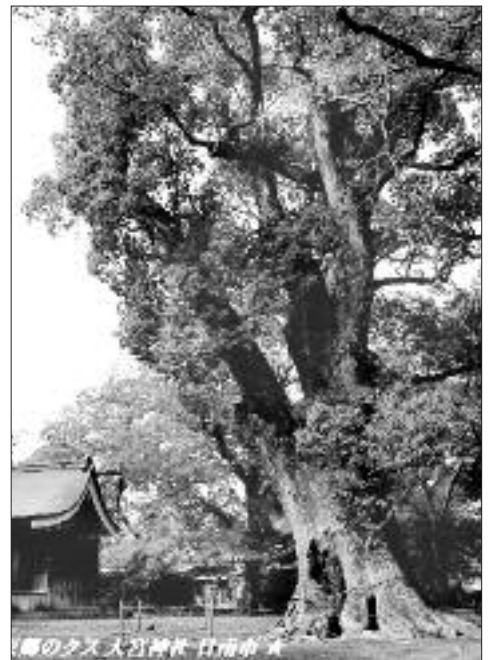
クス自体が上鶴神社のご神体という珍しいクスノキ。(写真・Web画像)



▲写真 K-097

かすが  
**春日神社の大クス**

拝殿両脇にクスノキがあり、右手が大クスで、2.5mで大きく2分岐する。(写真・石田徹)



▲写真 K-098

とうごう  
**東郷のクス**

大宮神社境内に立つ大クスだが、樹勢は弱りつつある。(写真・Web画像)



◀写真 K-099

たざき おおくす  
**田崎神社の大樟**

正式名は七狩長田貫神社とも呼ぶ。根元が大きく膨らむ樹形。(写真・石田徹)

写真 K-100▶

につた おおくす  
**新田神社の大樟**

立派なクスノキの森があり、その中の最大株であるが、主幹上部は破損し、樹勢は弱っている。(写真・Web画像)





▲写真 K-101  
 太宰府天満宮の夫婦楠  
だざいふめおとくす  
 本殿後方に立つ2本のクスノキ。  
 (写真・Web画像)



▲写真 K-102 (写真・巨樹巨木巡礼 HP)  
しわほうまんぐう  
 志波宝満宮のクスノキ



▲写真 K-103  
うちこし  
 打越天神のクス  
 高台の縁に立つ。  
 (写真・石田徹)



▲写真 K-104  
べっしょ  
 別所の大クス  
 吉野川堤防のすぐ下に立ち、2mで2分岐する樹形。(写真・Web画像)



▲写真 K-105  
てんまん  
 天満神社のクスノキ  
 根元近くで2分岐するが、樹冠は巨大で、樹勢がよい。(写真・Web画像)



▲写真 K-106  
くすがみ  
 楠上神社のクスノキ  
 大枝は破損しているが、樹勢はよい。  
 (写真・石田徹)



◀写真 K-107  
おうじ  
 王子のクス  
 王子神社の境内に立ち、支柱によって支えられている。

写真 K-108▶  
おおかわ  
 大川のクスノキ  
 薬師堂の境内にあり、見事な単幹樹である。  
 (写真・石田徹)





▲写真 K-109  
よか  
与賀神社のクス  
(写真・Web 画像)



▲写真 K-110  
うりゅうの  
瓜生野八幡神社のクスノキ  
(写真・Web 画像)



▲写真 K-111  
やまなし  
月見里神社のクスノキ  
本殿の後方に立ち、上部で2分岐する。  
(写真・Web 画像)



▲写真 K-112  
すが おおくす  
須賀神社大楠  
(写真・谷田元彦)



▲写真 K-113  
くまの  
熊野神社のクスノキ  
境内に4本のクスノキがあり、本殿裏  
の最大株。(写真・石田徹)



▲写真 K-114  
おおた おおくす  
大田の大樟  
大宮神社境内にあり、分岐幹が大きく広がる樹形。



▲写真 K-115  
はやさめ  
速雨神社のクスノキ  
分岐幹が大きく広がる樹形。  
(写真・Web 画像)

写真 K-116▶  
やくしじ おおくす  
薬師寺の大楠  
(写真・Web 画像)



写真 K-117▶  
いっく  
一宮神社のクスノキ  
(写真・Web 画像)





▲写真 K-118

だいふ おおくす  
大分八幡の大樟

主幹から出ていた分岐幹の痕跡が残っている。(写真・石田徹)



▲写真 K-119

よこやま おおくす  
横山の大樟

観音堂裏手斜面に立つ。(写真・石田徹)



▲写真 K-120

ざおう  
蔵王神社のクスノキ

2mで2分岐し、大きく枝葉を広げる樹形である。

(写真・Web画像)



▲写真 K-121

かわかみ  
川上神社のクスノキ

境内に立つ見事な単幹樹。  
(写真・石田徹)



▲写真 K-122

しゅんとくじ  
春徳寺の大クス

山門前の斜面にかろうじて根を広げるクスノキ。(写真・石田徹)



▲写真 K-123

すが おおくす  
須佐神社の大樟

境内に立つ見事な単幹樹である。  
(写真・Web画像)



◀写真 K-124

みつおか おおくす  
光岡八幡宮の大樟

根上り樹形で、幹周位置を確定するのは困難。主幹そのものは幹周7m代である。  
(写真・Web画像)

写真 K-125▶

いくたのもり  
生田森

老松神社境内に立つ老クスノキで、主幹は空洞化が激しい。  
(写真・Web画像)

